



第68回市民文化祭ポスター

第六十八回江別市民文化祭開会式次第

令和三年十月十日(日) 江別市民会館小ホール

主催／NPO法人 江別市文化協会 共催／江別市教育委員会

- | | | |
|----------|--------------|-----------|
| 一、開 会 | 司会 江別市文化協会理事 | 加藤 高 |
| 二、挨拶 | 江別市文化協会理事長 | 甲谷 滋子 |
| | 江別市教育委員会教育長 | 黒川 淳司 |
| 三、来賓ご紹介 | | |
| 四、表 彰 | 江別市民芸術文化奨励賞 | 山下 文幸様 |
| | 同 | 阪本テル子様 |
| | 同 | 江別孔版画同好会様 |
| 五、来賓祝辞 | 江別市副市長 | 後藤 好人様 |
| | 江別市議会議長 | 宮本 忠明様 |
| 六、代表者謝辞 | 江別孔版画同好会代表 | 佐藤 貞男様 |
| 七、閉会のことば | 江別市文化協会副理事長 | 藤田 昌之 |

令和三年度 江別市民芸術文化賞等 受賞者

【推薦者】NPO法人江別市文化協会

展示部長 岡村 祐子

【略歴等】昭和四十二年、中央公民館で趣味の教室として始まり、最盛期には六十名の会員が在籍。発足時より毎年「孔友えべつ作品集」及び年間カレンダーを制作発行し、市内公民館等への寄贈を行っている。また全国孔版画年賀状展（毎年十一月末）へ出品し、全国の愛好者と交流している。現在は十名の会員が伝統ある孔版画に



江別孔版画同好会

江別市民芸術文化奨励賞



令和三年十月十日から十一月二十一日まで第六十八回江別市民文化祭が開催されました。

期間中新型コロナウイルスの感染防止に万全の対策を取り、無事に終了する事が出来ました。関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



ごあいさつ

江別市文化協会 理事長 甲谷 滋子

令和四年になりますとコロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染が急拡大しています。また、気候変動問題、経済活動の状況等世の中は問題山積ですが文化は永遠に不滅です！今後の皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。あいさつと致します。

取り組み、在籍四十九年になる竹本三好氏（九十五歳）が会長を務める。平成二十四年文化協会入会前より、中央公民館での市民文化祭展示部門に出品している。会発足以来五十四年という長きにわたり「孔版」

という手法にこだわり、作品作りを楽しんでこられ、かつ技術を継承しながら活動を続けてきた当会の存在は、美術文化として手本とすべきものであり、表彰に値するものである。

江別市民芸術文化奨励賞



山下 丈幸氏
ライブフォープロジェクト
元代表

【推薦者】 NPO法人江別市文化協会
理事長 甲谷 滋子
【略歴等】 平成二十四年、前任者の岡田氏よりライブフォープロジェクトを引き継ぐ。以降、市民文化祭ジャズ・ロック

部門のエイベッツバンドエクスプローションの名称を、エイベッツバンドカーニバルへ変更。以降令和三年まで九年間、ジャズ・ロック部門プロック長として、エイベッツバンドカーニバルの多大な盛り上がり尽力された。また、第三回（平成二十四年）第十回（令和元年）総合芸術フェスティバル、ジャズ・ロック部門に、中心メンバーとして毎年参加。令和元年、第四十六回石狩管内郷土芸術祭舞台部門（新篠津村）にも出演した。文化協会におけるジャズ・ロック部門への功績は、多大である。

江別市民芸術文化奨励賞



阪本 テル子氏
花柳流喜泉二朗会

【推薦者】 花柳流喜泉二朗会

会主 花柳喜泉二朗

【略歴等】 花柳流喜泉二朗会は、平成十八年の文化協会加盟から今日まで、市

民文化祭「邦楽邦舞大会」に毎年積極的に参加。また、第九回・十二回土佐市・江別市交流文化祭にも参加協力してきた。その中において、会計係、副責任者として会員を引っ張り、習字の講師もされる多忙なか、江別市民文化祭、ボランティア、町内会、老人会、札幌文化祭、チャリティ、勉強会等、多方面にわたり十九年間積極的に参加された。会のみならず、文化協会日舞部門への功績は、多大である。

68th 江別市民文化祭

第42回 江別子ども文化祭

- 令和3年11月20日
- えぼあホール



出演団体は①「江別ジュニアオーケストラ」②「江別児童合唱団」③「北海道中国武術倶楽部」④「ふぞろいな輪ごたち」⑤「江別子ども演劇クラブ」（江別子ども劇場）⑥「文京台一輪車クラブ」⑦賛助出演・オカリナ・クォーレ（江別市高齢者クラブ連合会）

昨年同様、コロナ禍での開催で当日ま

で不安を抱え、様々な対策をしての文化祭でした。昨年は出演依頼をしなかった江別市高齢者クラブ連合会にもワクチン接種が行われたということで出演していただきました。対策はフィナーレ・バザーの中止、客席を隔席として完全前売り指定席券のみの販売、受付での検温、マスク着用&手指の消毒確認、ホールへの入口指定、演目間に三分間ほどの出入りの時間を設ける、最後の時間差退場など実行委員会話し合いや確認をしました。

緊急事態宣言などもあり各団体も練習が思うようにはできない中での発表となったようでしたが、無事に開催できた事、そして何よりも江別の子どもたちがステージで楽しみ、輝いていたことは本当に嬉しいことでした。

（実行委員長 川守田）



68th 江別市民文化祭

洋舞・演劇 フェスティバル

● 令和3年11月3日
● 江別市民会館 大ホール



今年もまたコロナ禍での開催

令和三年十一月三日、江別市民会館にて「第三十五回洋舞フェスティバル」を開催しました。二年連続で新型コロナウイルスの影響を大きく受ける中ではありましたが「文化の灯を消してはならない」という信念のもと今回も開催することを決めました。

洋舞ブロックに登録されている全十三団体のうち参加団体は半分以下の六団体。例年であれば昼の部（第一部）・夜の部（第二部）の二部公演なのですが今年も昼の部（第一部）のみ、客席も半分に減らし全席指定でのチケット販売にしました。

かつて当たり前だったことはほとんどが禁止や制限付きになりました。

マスク着用でのリハーサル、消毒の徹底、会話の禁止、控え室へのご家族等の入室制限、花束・プレゼントお断りなど出演者・関係者・ご家族の皆様にはたく

さんの我慢を強いることになってしまいました。

ご来場くださったお客様には入場時の検温、消毒、マスク着用、連絡先のご記入、声援の禁止など様々な感染防止対策にご協力いただきました。この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

そのような異例がたくさん存在する中、これまでと変わらないものはステージの上にあります。

この日のために練習した成果を力の限りに発表し仲間と喜びを共有すること。会場から頂戴するたくさんの拍手に全力で応えること。

一瞬一瞬を全身全霊で楽しむこと。ライトに照らされたことだけが理由ではない輝きにあふれた舞台となりました。



た。これもひとえに多くの皆様の支えがあつてこそだと思っております。今までの感謝の気持ちと初心を忘れずに、さらに成長した姿で次回こそたくさんの仲間とたくさんのお客様にお会いできることを祈りながら日々の練習に励んで参ります。一日も早く、思う存分練習しステージに立つことができる日常と笑顔が戻ってきますように。

出演団体

1. J&T Jr.its
2. マインド Jr.マーガレット
3. スポーツコミュニティブリック
4. ハイビスカス・フラサークル
5. ブリックキッズチアダンス
6. ビジュ・バレエコンチエルト

(洋舞ブロック代表 坂井 亮治)

68th 江別市民文化祭

市民陶芸展

● 令和3年11月3日
～11月5日
● 野幌公民館
ギャラリー




68th 江別市民文化祭

市民書道展

- 令和3年11月3日～11月5日
- 野幌公民館 ホール



体（江別書人集団・江別書道会・秋桜会）併せて三十五名の方々による「漢字」「かな」そして「篆刻」等、昨年同様の三十七作品となりました。「子供習字」を隣接展示としましたので会場は一寸広めに感じただでしょうか？

ご観覧いただいた三百名超のみなさん、受付等でお手伝いいただいた方々、そして出品者のみなさんありがとうございます。

主催 江別書人集団

「二〇二一年 響かせよう 伝え合おう 文化の心を」。コロナ禍に悩まされ続きの文化祭でしたが、多くの方の熱意ある協力をいただき盛会裏の作品展示となりました事に深く感謝です。今回も一般応募の出品は続き、文化協会所属の三団

「病みあがりのところ出品案内で気力が沸いた」と言われての作品には感激でした。書道を愛される方は是非とも興味を持っていただき、江別の書道文化の一助として広がりがあればと切望する次第です。

（江別書人集団事務局長 山田 静山）



令和3年度 芸術文化特別記念事業

江別美術協会 創立50周年記念展開催

- 令和3年10月28日～11月3日
- 江別セラミックアートセンター



江別セラミックアートセンターにて令和三年十月二十八日～十一月三日、作品六十八点を展示、五百七十二人の来場を頂き、五十周年記念展が盛大に開催されました。

絵を趣味とする人は全国的に高齢化傾向で当会も会員四十四名、平均七十四歳とかなりの高齢です。絵を描くことは孤独ですが展示して、互いに講評するのは無類の楽しみ、感じたことを精力的に表現した作品からは感動が伝わります。画風はそれぞれに異なっても、伝わってくる生活感や訴えを素直に認め合えるのがこの会の良いところです。多様性を認め、描く楽しみを享受できることが何よりの幸せであり、日々の潤いを得ています。

創立以来この会は絵画等の制作展示を通して相互の親睦と地域の美術文化向上を図りつつ五十年の歴史を刻んでいます。昭和四十六年（一九七一年）に北陽美術協会として発足、平成二十七年（二〇一五年）に江別美術協会と改名。



創立当時、美術団体は珍しく北陽会は石狩管内絵画仲間にも広く知られ、会員も多い時には百名にもなり、絵画芸術への貢献度は多大と思われま。その後、近隣町にも美術団体が設立されましたが、今でも道展を始め全道全国の公募展に入選や入賞し更に会員として絵画芸術に広く携わっています。これは皆様方のご観覧という温かな応援があったお陰と感謝しております。最近江別と近郊を中心に、生涯学習として親睦を図りながら互いに刺激を受け励んでいます。江別美協では、年三回の展示と、年四回の描く研修会が主な活動で、入会ご希望の方はいつでも大歓迎致します。これからも多彩な作品を創作する仲間と共に、大勢の方に楽しんで頂けることを願っています。

（江別美術協会会長 砂山 信一）